

# 長いこと夢見ていた、水と親しめる日々 わずか120万円で完成した屋内プール



大きな家でも間延びして見えないよう、シルバーのガルバリウムと濃紺のソフトスタックでツートーンに仕上げました。夜には玄関前のソテツがライトアップされます

## 毎日のリフレッシュに プール・サウナ・ビール

今回訪問した千葉県白井市の三浦邸。玄関を上がって驚かされるのは、目の前に長さ8m、幅2.7mの屋内プールが広がっていること。これくらいあれば一人で泳ぐには十分。屋外だと夏の間の1カ月程度しか使えませんが、屋内なら一年中入れます。帰宅するとまずはプール。サウナで汗を流したら、ビール片手にリビングで寛ぐというパターンで、ほとんど毎日使っています。ご主人、

この構想が生まれたのは10年以上も前。「住宅雑誌で屋内プール付きの家を見て、自分もこのように仕事の疲れを癒し、リフレッシュしたい」と思い、その雑誌をいつも手元に置いて、ときどき眺めたりしていました。最近になって本格的に家づくりを検討し始め、ハウスメーカー数社を回ってプールのことを相談したものの、どれも真剣にとり合ってくれません。ご自分でインターネットなどで探し、最初に見付けた施工会社はプール本体と工事費で1,000万円。別の会社では500万円できるが、ハウスメーカーを通すと中間マージンがかかり800万円になるとのことでした。

この話をBeハウス・アクトの飯田社長にしたところ、「家の基礎と一緒に工事すれば、もっと安くできるはず。造ってしましましょう」との心強い答え。プール用のFRP素材や水の循環濾過器などを個々に仕入れ、専門の施工業者も探して交渉し、結局、プールの費用は総額で120万円。これなら一般家庭でも現実的な金額。Beハウスだけが可能にしてくれました。

## 運転コストも軽減した 床暖房の温水システム

一年中使うには温水プールが絶対条件。そこでも飯田社長の大胆な工夫がありました。床暖房のパイプをプールの基礎にも通したので。施工業者と相談して容積率を割り出し、ランニングコストも考慮して熱源は灯油を採用。「窓からの日射しがあるせいか、10月でもプールの水は27℃程度を保っており、今のところ暖房費は



(左)コの字型の家にプールをはめ込んだ構造。プールは外壁の外にあるため、家が湿気で傷む心配はありません  
(右上)プールの屋根は広いルーフバルコニーになっています  
(右下)サウナも造作。輸入ストーンを含め40万円で完成しました



主寝室。ベッドのヘッドボードの上には聖画像が飾られています

全くかかっていません。水も年1回入れ替える程度で十分だそうです。

ご主人がBeハウスを探し当てたのも、やはりインターネット。「ハウスメーカーは坪単価表示だけで原価やマージン率が不明瞭。自分の会社でも、お客様に製造コストなどをお見せして、きちんと納得してもらった上で報酬をいただく形なので、Beハウスのコストパフォーマンス・マネジメントシステムは、安心して依頼できると思いました」プランを詰める段階では、毎日のように午後のショールームへ通い、体力的にはハードでしたが、そのぶん営業コストがかからないメリットと、一つ一つを自分の判断で決める充実感が味わえたことでした。

(取材/池田充雄)



(右2点とも)ゆったりとした22帖のLDK。白とブルーの配色でリゾートをイメージしました。タイル張りの床には床暖房も入っています

(下)三浦さんご一家。昌悦さん・マリデルさんご夫妻と、長男の昌史くん、次男の悦郎くん



**Be**ハウス

—デザイナーとつくる家—

<http://www.behouse.jp/>

■建物面積 187.94㎡(56.73坪)  
■土地面積 231.47㎡(70.01坪)